

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 冬を生きる動物達の生態

開催日時：2012年1月15日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット, かんじき(レンタルあり), スノーシュー
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

2011年は大雪の年でしたが、2012年はどうでしょうか？積もった雪の上を歩きながら、動物たちの足跡や痕跡を探します。どんな動物たちが活動しているのでしょうか？積雪量が多い場合、かんじきやスノーシューが必要です。レンタル可能(有料)です。



● 雪原のトレッキング

開催日時：2012年2月19日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット, かんじき(レンタルあり), スノーシュー
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

積雪により道がないところでも歩くことができます。一面真っ白の雪原で、冬に生きる動物・植物の姿を観察しながら、雪歩きを楽しみましょう。かんじき・スノーシューが必要な場合はご準備下さい。レンタルも可能(有料)です。

● 早春のトレッキング

開催日時：2012年3月18日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

厳しかった冬が過ぎ、3月に入ると八幡高原も少しづつ春の兆しが現れます。湿原や草原を歩きながら、いくつ春を見つけることができるでしょうか？この時期だからこそそのトレッキングをして季節を感じましょう。

新年あけましておめでとうございます。時が経つのはあっという間で、いつの間にか2012年になっていたような気がします。先月の中頃に芸北トレッキングガイドの方との忘年会がありました。その中で昨年の成果や反省、今後の課題やガイドの在り方などを、芸北を愛する気持ちと共に熱く語られていました。また、雪も本格的に降り始め、今年は暖冬かな？と思っていた冬もいよいよ本番と言った様子。こたつにミカンも良いですが、外を歩いて、冬ならではの物や風景を見たり写真に撮ろうと考えています。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第96号

2012.1.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- － 新年のご挨拶
- － 西中国山地の自然再生講座

活動報告

- － 千町原草原の保全活動
- － 巣箱・かんじき作り

観察会案内

- － 冬を生きる動物達の生態
- － 雪原のトレッキング
- － 早春のトレッキング

お知らせ

● 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年とは多くのご支援、ご協力を頂きながら、無事に活動を続けることができました。今年も様々な企画を通じて、西中国山地のフィールドを、皆様と一緒に楽しみたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

● 西中国山地の自然再生講座について

中国新聞文化センターの文化教室にて西中国山地自然史研究会の講師による講座が始まります。たくさんの方の申し込みをお待ちしております。

講座名：西中国山地の自然再生講座

受講料：6,930円（全3回）

※入会金不要

講師：渡邊 園子、大竹 邦暁、佐久間 智子

日時：全3回、10:00～11:30

・1/22（日）

「生物多様性の現状」生き物の豊かさとは何か

・2/26（日）

「里山とは何か」里地・里山の自然と保存

・3/25（日）

「野焼きとは」草原の自然と保全・再生

会場：中国新聞文化センター クレドビル教室

広島市中区基町6番78号 基町クレド

（パセーラ11階）

受講の申し込み・問い合わせ：

中国新聞文化センター

電話：082-502-3456

観 察 会 報 告

●千町原草原の保全活動

開催日時：2011年11月23日（水） 8:30

2004年からはじまり今回で8回目となる千町原草原の保全活動には、前線の影響で風がとて強く、雨も心配される中、地元の方や広島県内外合わせて107名が集合しました。受付の後に山麓庵前ではじまりの会が行われました。白川学芸員や班のリーダーが、千町原や八幡の歴史、草原保全の必要性や、今日のスケジュールの確認、どの辺りの草を刈るのか、安全に気を配りながら楽しんで作業をすることが大切である事などを話されました。会を終えた後は、現地である千町原に移動します。作業内容は、春に火入れをするための防火帯作りと、樹木の伐採の他、今年はおーいの丘の下に広がる藪にも手を入れることになりました。この場所は昔湿地でしたが、人の手が入らなくなり藪となっていました。保全活動が始まった当初、一度手を入れたことがありましたが、年月が経ち、再び藪が広がり、この湿地を住処としていた野鳥がいなくなりつつあることを、野鳥観察会の講師でもある上野先生が話されました。4班に分かれて、それぞれの持ち場につき作業開始です。まずは草刈り機で草を刈り、ある程度距離ができれば、レーキやフォークで草を集めて、刈ってできた防火帯の脇へと運びます。草刈り機では難しい部分は残しておいて、自前で鎌を持ってきていた方が後でフォローに入るなど、息の合った作業場面も見られました。それと平行して、キッズプログラムも行われました。今回は保護者の方も参加し、講師である佐久間さん、新保さんと千町原を散策して、落ち葉や木の実を集めてリースを作ったり、草刈りの様子を見学するなどの活動を行いました。お昼になると一度作業を中断して、山麓庵に戻ります。山麓庵では、自然館の隣にあるかりお茶屋のお母さん達が、はらっぱ一米で作った炊き込みご飯や、豚汁、はらっぱ一大根の煮付けや漬物などを用意して下さいました。温かい食事は強風で強張った身体を優しくほぐしてくれているようでした。午後に入ると風は勢いを増し、ちらちらと雪も降り始めました。エイドステーションでは一足早くテントを片付けたり、机の上の荷物を地面に置くなど、強風への対策をし

ました。草刈りの作業を終え、参加者全員で恒例の記念撮影を行いました。来年の春には野焼きが行われます。その時にまた会えることを楽しみにしながら、千町原草原の保全活動は終わりをむかえました。[ありみつまさかず]

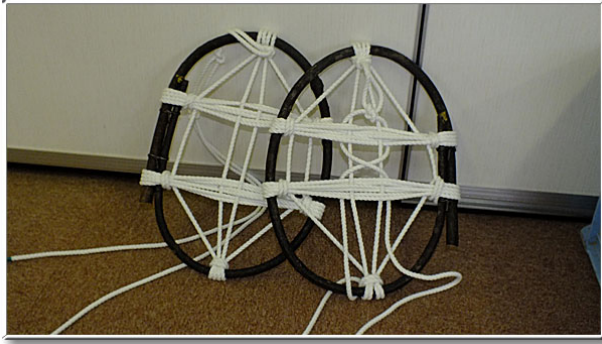
※写真を荒木則行さんに提供していただきました。ありがとうございました。



開始直前まで降っていた雨も止み、山麓庵ではじまりの会がスタート。



ボードを使って草を刈る場所や諸注意を説明する白川学芸員。



完成。この後は足の甲やかかとへの巻き付け方を教わった。



完成した巣箱と一緒に記念撮影。



こちらは巣箱作り。先生と力を合わせて板材を切る。



暮町先生からいただいたスタジイをいただく。炒った実の甘さが口の中いっぱいひろがった。



板材に釘を打つ。割れない様にあらかじめドリルで小さく穴を空けておいた。

【みなさんの印象に残った物】

「ガマズミの枝でワクを作る作業が大変だったと思います。出来上がりがきれいだった」「みんな教えあいながらのかんじき作り」「かんじきの結線が工夫されていること」「ひもの通し方が難しかった(2)」「男結びがむずかしい」「くぎをうつのがたのしかった」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「男むすびがなかなかむづかしい(2)」「来年も作りたい(3)」「伝統の技を教えていただきありがとうございます」「出来上がった“カンジキ”で雪の上を歩きたいと思います(2)」「カンジキを作りに来て4回目です」



草刈り機で草を刈る。安全のために距離をとって後に続く。



はらっぱ一米やはらっぱ一大根などで作ったお昼ご飯をいただく。



刈った草を集めて、隅へと運ぶ。思ったより重労働！



午後からの作業再開。一人では持ちきれないのでブルーシートを使って皆で運ぶ。



こちらはキッズプログラム。午前中は千町原の散策と草刈りの見学をおこなった。



きれいになった千町原で記念撮影。お疲れ様でした！

観 察 会 報 告

● 巣箱・かんじき作り

開催日時：2011年12月3日（土）10:00

講師：暮町昌保・坂井健作

雨が強く降り、肌寒い空の下、八幡高原センターに10名が集合しました。今回の講師は暮町先生と坂井先生です。最初に先生達の紹介と挨拶があり、暮町先生から巣箱の作り方や設置する際のポイントなどの説明を受けました。設置する場所は入口の周りに枝がない場所にする事や雨水が入り込まないように、入口を少し下向きに作る事などを話されました。その後、巣箱班とかんじき班に分かれて作業を始めました。巣箱作りでは、まずは図面に沿って板材に線を引いてはのこぎりで切り出していました。次に入口を作ります、今回はシジュウガラやヤマガラなどを対象としているため、大きさを2.8cmにしました。この穴が大きすぎると、他のスズメなどが巣を作ってしまうことがあるので、大きさが変わらない様に慎重に穴をあけていきました。最後に切り出した板材を組み立てます。板材が途中で割れない様に、あらかじめドリルで穴をあけ、そこに釘を打って組み立てていきました。

かんじき作りは坂井先生に教わります。まず、かんじきに使うひもの準備です。8m以上のものを2本ずつ用意します。その後、ミヤマガマズミやヒノキの枝などを湯がいて作られた、かんじきの枠を坂井先生から配っていただきました。ここから「きたひろしまの達人」に認定された、先生の技を教えてください。ヒョイヒョイっとひもを巻き付けながら説明されていく先生の手元を見ながら、一緒にかんじきを作っていきます。途中で分からないところがあった時は、先生に再度見せていただいたり、一緒に作っている参加者の方と教え合ったりしながら、少しずつ完成に近づけていきました。最後に「おとこむすび」と呼ばれる頑丈な結び方で終わるのですが、ここが一番難しくこれまで何度かかんじき作りに参加されている方も苦戦されているようでした。完成したかんじきを履いてみたり、組み立てた巣箱を見せてもらうなど、集まった方の距離を近くに感じられた巣箱・かんじき作りとなりました。[ありみつまさかず]



暮町先生から板材の切り出し方や入口の大きさなどを教わる。



かんじき作りの講師は坂井先生。手本を見ながら縄を巻き付けていく。



かかと部分を製作中。先生！ここはどうすれば？